

## 中国現代アート調査と考察 2008・2009 広州・上海・北京 ——消費されないこと Face up to Reality

牧 陽 一\*

「随分多くの人々が芸術市場を語り、関心を寄せている。もしあなたが芸術家ではなく、ただの投資家なら、それはとても正常なことだ。でももしあなたが創作する人なら、それともあなたが元々表現したいことがあってこの生業に就き、芸術という方法が面白いと感じ、人並みの金銭財産や資金や地位があなたの最初の思いに取って代わるものではないのなら、それは正常ではなく、奇妙なことだ。」艾未未 (Ai Weiwei アイ・ウェイウェイ) 2007・1・31・午後、北京草場地艾未未の家、インタビュアー：徐坦 (Xu Tan シュイタン) 「キーワード辞典」より<sup>1</sup>

### 1. ハイブリッド・アートへ

2008年9月3日成田一広州、日中は蒸し暑く、亜熱帯特有の夕立がつづいた。老夫婦が談笑する飲茶の店ではゆったりと時間が過ぎてゆく。今回筆者は半月余りをかけて広州から上海・北京へと北上する現代アートの調査旅行に出かけた。そこには様々な現代中国の課題と現代アートの可能性が表われていた。本稿では印象に残った作品群を紹介しながら現在の中国現代アートの方向性を見出だしていきたい。

さて広州トリエンナーレ、野外のオープニングパーティーも雷雨で中断した<sup>2</sup>。テーマは「与后殖民説再見 (ポスト・コロニアリズムにサヨナラを)」。だがポスト・コロニアリズムが去っ

たというわけではない。植民地時代と現在を問題視したもので、世界に散在し混在するアジア民族史と個人史とを追求した作品が目立った。なかでもビデオ・アートが注目された。中国、日本、ベトナムとかかわってくるジュン・グエン=ハツシバ (ベトナム・日本)<sup>3</sup>の作品には今回も感銘を受けた。グランドでランニングや体操をする若者たちの足音と映像、ボンボンボンとエンジン音をたててメコン川を行く無数の小舟が交互に映し出される。舟の先方に立つ学生たちが木切れでつくった簡易なイーゼルを立てて山河を描く。やがて菩提樹が見えてくる。若者たちは次々と河へ飛び込んでいく。「グランド・ルーツ・エア—菩提樹を通り過ぎながら」(2004-7)。ここではアートへの憧憬をダイナミックに表出している。ブッダが悟りを開いたという菩提樹は若者たちを受け入れることだろう。生命の躍動感と希望にあふれた作品に思われた。

マリア・マグダリーナ・カンポス・ポンス&ニール・レオナルド (キューバ・アメリカ)「中国磁器・私は中国人なのだ」とママは言った<sup>4</sup>は湾曲した透明なアクリル棚に磁器を並べ、母親の映像を投影した。中国磁器はキューバのヨルバ系宗教サンテリアの祭壇にもたらされる。サンテリアはアフリカのナイジェリアから連れてこられた黒人奴隷によってキューバに移入され、キューバ文化と混じり合ったものだという。そのあとに中国人が製糖労働者としてキューバにやってきた。作家の血統に中国人の血が流れているという。この作品には一九世紀以降のアフリカ・中国・キューバの文化が混在していると

\* まき・よういち

埼玉大学教養学部教授、中国現代文化

いっていい。こうした文化の混在を個人的な血統からダイナミックな民族史へと敷衍させてみせている。

またバンディス・ファンソンヴァターラ（タイ）「サムシュエイポ：昔語り」<sup>5</sup>では商店のおじさんや学生たちが「イエスタディ」や「レットイットビー」を歌っている映像を線状に加工し、カラオケ風に歌詞をつけたものでこれも何とも言えない郷愁とおかしみが滲み出ている。商店のおじさんがビートルズナンバーを見事に歌い上げる。こうした不思議なミスマッチはポップスがアジアにすっかり定着していることを証明している。ここでも文化の混合を示している。

また程然（ChengRan チョンラン）は文化の混



図01 マリア・マグダリーナ・カンポスーポンス  
& ニール・レオナルド  
「中国の磁器・私は中国人だとママは言った」



図02 バンディス・ファンソンヴァターラ  
「進行中のプロジェクト」

在をポストモダン的な手法として流用する。

「This is the End」は「モダンタイムス」「甲午風雲」「男たちの挽歌」「遠走高飛」といった記憶に残る映画の結末部分をカットアップしてリミックスしている。

さらにパブロ・ウェンデル（ドイツ）「テラコッタ・ウォーリア」<sup>6</sup>は西安郊外にある世界遺産、秦の兵馬俑坑に侵入して兵馬俑になりきっている。観光客が気づいて警備員に知らせると、警備員は慌てて電話している。やがてたくさんの警備員たちがやってくる。警備の責任者がいったんは取り上げた兵馬俑の台座にしていた座布団のようなものを作家に返して「これを敷きたいんだろう、ほれ」と足元に置いてやる。作家は無表情のままにその上に戻る。そんなやりとりがあって最後には手足を抱えられてつれ出されるという体当たり式の笑える作品である。トリエンナーレでは唯一笑いを誘っていた。ドイツ人が兵馬俑になってみせる、その点でも奇怪な民族融合を示す。

このように広州トリエンナーレの主題はアジア的なハイブリッド・アートの可能性を追求したものであろう。今日問題にされるナショナリズムを超える新たな姿を見せているといえるだろう。実際に北京オリンピックは中国ナショナリズムの高揚を見せたばかりであった。蔡國強のように体制に取り込まれるのか、この裏側で



図03 パブロ・ウェンデル「テラコッタ・ウォーリア」

現代アートが何を提示できるのか、それが2008年の重要な動向だったはずである<sup>7</sup>。また2008年11月、アメリカ大統領選挙にオバマが勝利した。行き詰った多民族国家アメリカの未来にとっても「混血化」が可能性の一つなのではないだろうか。

ポスト・コロニアリズムにしてもハイブリッド・アートにしても、使い古された感も強い。だが問題はそうしたコトバを流行、流通させ、消費させて終わらせたつもりになっている側の浅薄さである。熟考することなく消化したと誤解する方が病は重い。実際にこうした課題は解決する兆しささえ現れてはいない、永遠の課題といっている。たとえば、現在消費化が進み市場で高値を呼んでいるポリティカル・ポップ・アートやシニカル・リアリズム、チャイナ・キッチンも現代アートの課題を中国の土壌で反復したものだろう。商品化の如何は別として、未解決なテーマを中国現代アートは粘り強く反復させ、深化を図ってきた。それが中国現代アートの重要な姿勢といえる。

広州では芸術区と言えるような場所はまだ形成されていないようだ。1986年王度(WangDu ワンドゥ)らの「南方芸術家沙龍(サロン)」やそこから派生した1990年林一林(LinYilin リンイリン)らの「大尾象」の流れがあって今日に続いている。しかし今ではそうしたグループ

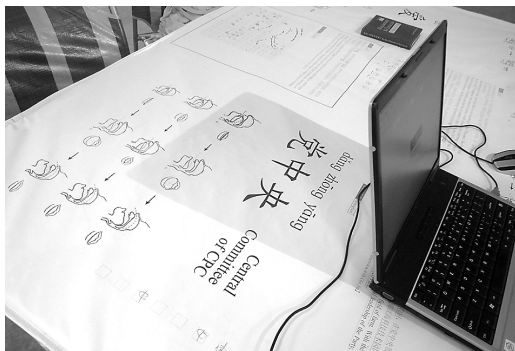


図04 徐坦キーワード・スクール

化やコミュニケーションの形成はあまり活発ではない。海珠区新港中路新港商業城を入った外れにあるビタミン・クリエイティブ・スペースが広州では唯一注目されるアートスペースといえそうだ。キュレーターの胡昉(HuFang フウファン)<sup>8</sup>、アーティストの鄭国谷(ZhengGuogu チョン・グオグウ)曹斐(CaoFei ツァオフェイ)<sup>9</sup>らが参加している。今回は「大尾象」のメンバーだった徐坦(XuTan シュイタン)「キーワード・スクール」<sup>10</sup>に参加した。先に述べたコトバの消費を課題としている。作家のインタビューの語彙からキーワードをピックアップして辞典をつくる。会場を学校にしてキーワードを学ぶというものである。会場は教室、演習室、メディア室、インフォメーションセンターに分かれ、9月と11月に1日4、5個のキーワードを学ぶことになっている。かなりコンセプチュアルで人をくったような狡猾な作品といえる。2003年には彼の「中国浴」という作品を見たが、それは美術展にガラス張りのサウナを登場させ、アート概念の異化を図ったものだった。今回もアートの概念を問い質している。シュイタンに少し話を聞いた。筆者が「艾未未(AiWeiwei アイ・ウェイウェイ)の語彙には「自由」が多いね。」というと「盧昊(LuHao ルーハオ)は「オークション」という言葉をよく使うよ。」と笑っている。アイ・ウェイウェイには目指すものを感じるし、ルーハオは気になることがコトバになってしまうようだ。こうした語彙の調査はそのまま隠された作家の思考に近づくことだろうし、キーワードの検索数によって社会の縮図を知ることにもつながる。消費されようとするコトバを現代アートの方法でつなぎ止め、再考を迫っている。

## 2. 内部植民地化を問う

9月7日、広州—上海

上海ビエンナーレ 2008「快城快客」。中国語の題は「急行都市、急行列車」という意味になるが、都市と農村のギャップや格差の問題とそこから超越していくための思索がテーマとなっていると思われる。<sup>11</sup>一階の尹秀珍(YinXiuzhen インシウヂェン)の「飛行器フライングマシーン」<sup>12</sup>は飛行機の両脇に自動車とトラクターが突き出している。それぞれが都市と農村を象徴する。この不格好で重そうな「飛翔できない」飛行機は正に中国社会そのものを示す。都市と農村の格差はその翼の両側を醜く肥大化させる。

またすぐ横には様々な「荷物」<sup>13</sup>が置かれている。王慶松の作品。それは花柄の風呂敷包、スーツケース、ルイヴィトンのバック、「蛇皮袋」と呼ばれる細かな縞模様に入った簡易なビニー



図05 尹秀珍「フライングマシーン」



図06 王慶松「荷物」

ル靴、豚の飼料袋を再利用したものなどである。それぞれの荷物の持ち主には様々な職業、さまざまな階層の人物を想像できる。作家に言われて触ってみると重い。すべて銅でできている。貧富の差があっても「本質的には等しい」これが作家のメッセージなのだろう。王は04年、作家自身が浮浪者になりきった「流浪漢」<sup>14</sup>をつくっている。ここ数年の視点は出稼ぎ労働者の問題に移行している<sup>15</sup>。

張偉傑(ZhangWeiJie チャン・ウェイジエ)のビデオ作品「歡樂頌(よろこびのうた)」<sup>16</sup>は旧正月に上海駅から故郷に帰る農民たちの群れを記録している。毎年旧正月には全国で二億人もの人々が大都市から故郷に帰る大移動が起こる。待合室に寝ている人、地べたに置かれたカップ麺をすする姿、疲れ果てた様子、大荷物を背負って改札に殺到する人々を描く。それはあまりにも辛い「よろこびのうた」といえる。



図07 王慶松「流浪漢」(部分)



図08 張偉傑「歡樂頌」



周滔 (ZhouTao チョウタオ) のビデオ作品「1, 2, 3, 4」<sup>17</sup> は 40 以上の会社やお店の朝礼を撮ったもので、制服のスタッフたちが腕を振り上げて「ガンバロー」とやったり、号令に従って駆け出したりする。連続して見ていくと、おかしみばかりではなく、異常な熱気と統制に全体主義的な恐怖さえも覚える。社会主義の全体主義が消えたわけではなく、資本主義のもうけ主義の中に見事に再現されているのではないかと。

屋外には巨大な蒸気機関車が横たわる。井士剣 (JingShijian ジン・シィジエン) 「移城 Express Train」<sup>18</sup> 脇には毛沢東語録を手に掲げた紅衛兵が見送っている。機関車の腹には「知識青年が農村へ行って、貧しい農民に再教育を受けることは大変必要なことだ。農村は広大で



図09 周滔「1, 2, 3, 4」



図10 井士剣「移城」

あり、活動の余地が大いにある」という毛沢東の言葉が書かれている。1968年12月に始まった「上山下郷」運動によって十年間に160万人の中高生たちが農村に向かった。その悲劇は記憶にとどめられている。逆に1980年代以降現在まで農民が生活のために都市へと流入している。「歓楽頌 (よろこびのうた)」「1, 2, 3, 4」同様に都市への農民の流入、そして新たな階層＝底層 (貧困層) の出現を問題視している。こうした現状は都市が農村を食いものにす中国の「内部植民地化」を抉り出した表出ではないだろうか。

都市のモダンや中国の叙情的作品を撮り続けてきた楊福東 (YangFudong ヤンフートン) も題材を農村に変えてきた。莫干山路五〇号 (M50) 奥、香格納画廊 (ShanghART) での「雀村往東—楊福東的個展」(2008/9/7-10/12)<sup>19</sup>。6面のモノクロの映像。野犬が動物の死骸を貪り食らう姿を遠景から近景から撮る。骨を奪い合っただる痩せ犬。崩れた城壁、廃墟、荒野。足を引き摺った犬が氷上をいく。農民の粥を啜る姿、欠けた茶碗、カン (オンドル) の上、壁に掛かった美人画。三輪トラックが肥を運ぶ。肥を畑に撒く農民。土埃、鳴り物入りの葬列一。

雀村は作家が幼年期を過ごした河北省香河県の村を撮影している。広州でも「青・麒麟」を出品した。これは山東の石彫り職人を撮影した

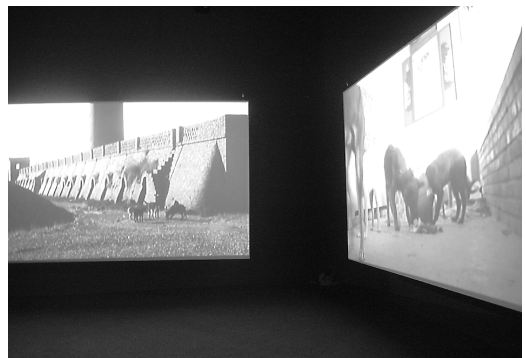


図11 楊福東「雀村往東」

ものだった。対象は中国的な美から農村や労働者の貧困へと大きく変わった。作家にこうした大変化を促したものは何だろうか。やはり中国の現実、その問題の根深さが作家に転化を促したと言えるのだろう<sup>20</sup>。

### 3. 社会主義リアリズムを超える

最近の艾未未はオリンピック国家体育场（鳥の巣）の設計顧問、ドクメンタ12での1001人の中国人のカッセル訪問（「童話」）と話題に事欠かない。「むかしむかし、千とんで一人の中国人がドイツはカッセルという町にやってきました」という童話をそのまま作ってみたかったのだ。だが数億の資金をスイスの財団が数分の電話で承諾したという話も面白い。2008年の3月「身体媒体」では床屋さんになってみたりしている<sup>21</sup>。案外上手かもしれない。彼は芸術家などと呼ばれるよりは奇人として記憶にとどめられたいのか。あるいは何者かになることを拒んでいるかのようだ。それはオリンピックという政治に関わってからの傾向であり、体制側に取り込まれないための姿勢といえる<sup>22</sup>。

1993年ニューヨークからの帰国当初は黒表紙、白表紙、灰色表紙（地下美術本）で「北京東村」パフォーマンスを擁護し、2000年上海での不合作方式Fuck Off展では「死体派」さえ賛助した。オリンピックへの協力については「作りたいから作った」。ユニットヘルツォーク&ド・ムーロンに協力したのであり、中国政府に協力したわけではないと言っている<sup>23</sup>。

一方艾未未同様「星星画会」のメンバーだった朱金石 ZhuJinshi「権力と江山」は明快に中国共産党の政治権力と対峙している<sup>24</sup>。入り口には水の入った数百個のかご。北京＝古城の消失への思いを示す。奥にはドロドロの紅いテーブル。

奥のスペースには黒塗りのベンツ S300 を十トンもの紅い絵の具でできた壁に突進させた。

「江山」とは中国共産党の奪取した紅色国土を示す。中国共産党は革命で地主の土地を接收し、再分配したが、今や再び党に集中させている。ねっとりとした不快な紅い壁。共産党による独占資本主義を突破する意味を付加している。アートであるからこそできる直截的で見事な表現だったといえるだろう。

また夏星 XiaXing シアシンは2004年以来、月六枚前後のペースで中国の新聞「新民報」一面の写真を同じサイズの油彩 70×100 で描き続けている<sup>25</sup>。習慣的な反復作業から河原温“Today” Series（日付の絵画）を思い起こす。だが作家は中国の出来事を取捨選択して再び眼前させる事で、記号的な日付とは明らかに対照的なこだわりと主体の介在を見せている。事件が無差別に流布し、日常を通過していくことに対して、抵抗を示している。たとえば2006年12月27日、賃金不払いのために野宿する出稼ぎ労働者の姿。テントに使われているのは中国でよく見かける赤白青白の縞模様のビニール・シートである。四月「休止符／中国当代芸術展」で、韓冰 HanBing ハンビンは星条旗<sup>26</sup> というパフォーマンス作品を出品。掲げられた旗は五星紅旗に先のビニール・シートを合わせたもの



図12 朱金石 ZhuJinshi  
「権力與江山 POWER AND JIANGSHAN」

27. どれも農村からの出稼ぎ労働者の貧困を問題にしている。

戴光郁 DaiGuangyu ダイ・グアンユイは2004年天安門で「天安門—天は知っている」<sup>28</sup>をつくった。天安門事件を忘却しないこと、それを訴え続けている。ここ数年の盛奇 ShengQi ションチィの油彩の作品も同様である。以上がオリンピック前の北京の状況である。

9月11日 上海—北京

中秋の名月パラリンピック開催中、工場の操

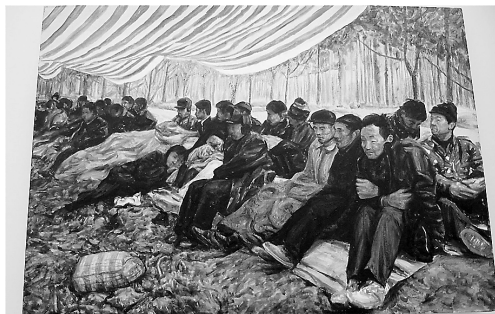


图13-1 夏星

**新京报**

2008年12月27日 星期六 第16588号 2008年11月18日创刊 今日8版 零售1.00元

**北京65地块明年集中入市**  
住宅性质用地 39宗,有望形成土地供应充足的良好预期

▲27  
**台湾强震 闽粤赣有感**  
震级7.2,6.7级,至少1人死亡;  
福州广福寺震感较烈

▲29  
**中日共同历史研究启动**  
两国历史学家将就日本历史遗址

▲27  
**萨达姆被维持死刑判决**  
伊拉克法院维持30天待执行死刑

▲27  
**近百农民住树林讨薪**  
湖南,近百家农民工因被拖欠工资,在长沙岳麓区岳麓山森林公园内搭起帐篷,住进树林讨薪。

▲27  
**代世金库 隆重招商**  
大钟寺国际广场 临街首层 稀世铺王 盛大公售

▲27  
**只需一角**  
晚9点至早9点 17000  
打国内长途每分钟只需要一角钱!

▲27  
**九功情长 始终如一**  
2008年12月20日至2009年1月10日

图13-2 『新民報』

業規制、自動車の通行規制で空気もきれい、何時にもなく快適な北京だったが、作品の衝撃が今も残る。

楊少斌 (YangShaobin ヤンシャオビン) の「X—ブラインドスポット」。<sup>29</sup> 上海では四面のビデオだけだったが、北京ではその全貌を見ることが出来た。Xはレントゲンのエックス線、反転した身体をイメージさせ、ブラインドスポットとは採掘現場で働く高さ6メートル、タイヤの直径3メートル以上あるモンスターダンプカーの死角を示す<sup>30</sup>。楊は山西省や故郷である唐山

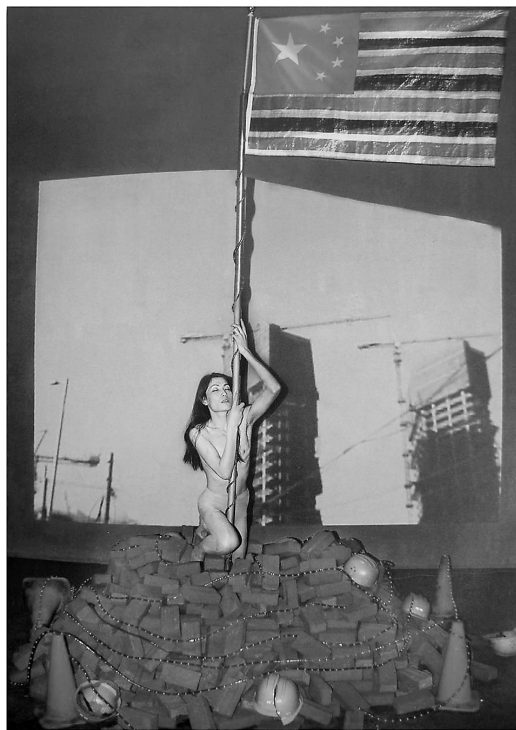


图14 韓冰「大工事時代の愛4号」



图15 戴光郁「天安門—天は知っている」

の炭鉱そして病院を取材し、現代アートの言語で貧困社会をえぐり出す。八八枚の瓶を写した電光パネル。そこには塵肺で亡くなった炭鉱夫たちの肺を洗浄した後の黒い液体が入っている。一つ一つが美しく、墓碑のように林立する。巨大な油彩には黒くなったホルマリン漬けの肺が描かれている。四面のビデオは採掘現場、炭鉱夫たちのシャワー室、生活を映し出し、瞬く間に反転する。炭鉱夫を英雄視しようとする体制的社会主義リアリズムの虚構を突き、そこを超越していく。

楊は1999年のヴェネツィアビエンナーレで醜くぶれた紅い肖像画を出品(「紅色暴力シリーズ」)、すでに一定の評価を得た作家だった。だが2006年、炭鉱夫の粗末な部屋やトロッコ、作業着をそのまま使った「縦深(深度)八〇〇メートル」以来、長征プロジェクトとともに炭鉱を舞台に作品をつくっている。モンスタートラックの「死角」は巨大化した中国そのものの死角、見捨てられた労働者・貧困層を暗示するだろう。鮮烈な即物性、そこから鋭く放射される批判性において、中国前衛の最前線を行く。

「地震」展では黙祷の台が設けられ、趙半狄 ZhaoBandi チャオ・バンディがカラフルなパンダをお土産に四川大地震被災地の子供たちを慰問している<sup>31</sup>。バンディは数年来この慰問視察シリーズを継続している。権力者、お偉いさん



図16 楊少斌 YangShaobin X-Blind Spot

の形骸化した行為を模倣することに、痛切な批判性をこめている。

榮榮 Rongrong ロンロンと映里 Inri インリは廢墟と化した農家、そして新天地をえがく<sup>32</sup>。破壊からの再生を示した。向京 XiangJing シアン・ジン は鏡張りの床に剃髪の女性像を並べていく<sup>33</sup>。女性性の問題を追及し続けている。9月17日北京一成田

2009年9月2日-9日再び北京

まず印象的だったのは北京大山子798芸術区 UCCA で開催されていた嚴培明「童年的風景」である<sup>34</sup>。逆さ吊りにされた旗、それをはためかせる為の噴出する風の轟音。黒い旗の一枚一枚には北京の孤児たちが描かれている。バブル経

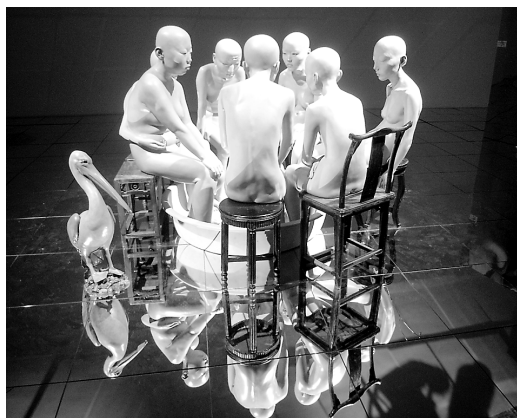


図17 向京「百人の人があなたを奏でるの？ それとも一人？」



図18 嚴培明「童年的風景」

済の中、衝撃的な方法で貧困の問題をクローズアップさせた。

さらに北京大山子 798 芸術区、常青画廊での顧徳新の作品にも強い衝撃を受けた。1000 平米もあるギャラリーの四方の壁には「我々は人を殺したことがある我々は男を殺したことがある我々は女を殺したことがある…」と赤い文字が書かれ、天窓はすべてテレビのモニターが嵌めこまれ、そこには青い空が映し出されている<sup>35</sup>。床の中央には「我々は天国へいける」と書かれている。我々は救われるのかという宗教的な命題を乗せている。また 1988 年顧徳新と共に「新刻度小組」を結成した王魯炎も作品を壁面に直に描き、商品化を拒否しているが、この作品もまた商品化を受け入れない<sup>36</sup>。

資本主義社会では売り物にならないものはない。アートが商品化して金持ちの家を飾ることになることは当然の結末である。しかし作家が市場とは全く関係ないところで作品をつくり続けている事実を確認したい。今回の調査でポップな絵画が溢れ、市場で高値を更新する流れとは全く別に、作家の主体性や問題意識の際立った作品群に出会うことができた。

さてこうして眺めていくとこの三都物語の結末も見えてくる。中国現代アートに課せられた重い過去とは中華伝統などという悠長で曖昧な

歴史などではなく、イデオロギーを核にもつ「厄介な正義」、文化支配体制である。強靱な社会主義リアリズムである。嘗ては中国共産党がそれを見出し、革命に援用した。いまは逆にこの社会主義リアリズムの批判性を資本家となった党に向けて発するべきなのだ。しかし体制側の補完物として「権力者の正義」を示すアリバイであるニセ社会主義リアリズムなら、御用作家たちが量産し続けている<sup>37</sup>。彼らはすでに体制に服従している。ヤンシャオピンは見事に社会主義リアリズムを解体してみせた。そして現代アートのコトバでつくり直した。それは政治・経済に支配されるアートの位置さえ逆転させる。

「紅色経理」中国共産党社長の関心は市場である。それは政治同様、力が支配する。全てが市場にのり、商品化する社会だからこそ逆にアートの存在意義と、作家の姿勢、思想が問われ、アートが鍛え直される。アヴァンギャルドが際立つ結果を見せるのである。

ここで重要なのはアートが何者にも従属しないということである。特に「政治体制」とは反対の側に位置する。さらに「商品化」をも拒否する。つまり現体制の権力と資本の集中した「共産党の独占資本主義」と対峙し続ける。バブルのあぶく銭を当てにするような輩に、現実を批判し、未来を語る資格はない。現代アートは現状を批判できる立ち位置をまずは維持し続ける必要がある。こうした面から考えれば、艾未未の四川大地震被害者の名簿づくり、不正建築への責任追及は、アートではないにしろ、アーティストとしての立ち位置を確保する行為だと考えられる<sup>38</sup>。こうした態度を多くのアーティストが持ち、現実を批判的にとらえる姿勢を崩さなければ、中国の現代アートが体制に対する一定の抑制を持ちえると筆者は考えている。



図20 顧徳新 2009・5・2

注

- <sup>1</sup> 徐坦 (XuTan シュイタン)「關鍵詞詞典(キーワード辞典)」  
Vitamin Creative Space 2008 ISBN:978-981-05-9852-5  
参考ウェブページ  
[http://www.ycwb.com/ePaper/xkb/html/2008-10/10/content\\_327450.htm](http://www.ycwb.com/ePaper/xkb/html/2008-10/10/content_327450.htm)
- <sup>2</sup> 『与后殖民說再見(ポスト・コロニアリズムにサヨナラを) 第三屆広州三年展(広州トリエンナーレ)』カタログ広州美術学院出版社 2008 会期:2008 9・6-11・16 会場: 広東美術館。簡単な報告を「ワールドニュース 広州」『BT 美術手帖』60 巻 総 915 号 2008 年 11 月 p118 に示した。
- <sup>3</sup> ジェン・グエン=ハツシバは 1968 年東京にて日本人の母とベトナム人の父の間に生まれた。参考ウェブページ <http://mizuma-art.co.jp/new/1251271143.php>
- <sup>4</sup> 図 01 マリア・マグダリーナ・カンボス・ポンス&ニール・レオナルド「中国の磁器・私は中国人だとママは言った」: 筆者撮影
- <sup>5</sup> 図 02 バンディス・ファンソンヴァターラ「進行中のプロジェクト」: 筆者撮影
- <sup>6</sup> 図 03 パブロ・ウェンデル「テラコッタ・ウォーリア」: 筆者撮影
- <sup>7</sup> 蔡国強は 2001・10・21 上海 APEC サミットの閉幕式 2008・08・08 北京オリンピック開幕 2009・10・01 中華人民共和国 60 年国慶節に花火の演出を担当している。2007・06・22 資生堂ギャラリーでの蔡国強「時光—蔡国強と資生堂」展の際に筆者と談話している。その時 蔡は「中国政府の文化政策を改革するために協力した」と言っている。
- <sup>8</sup> 横浜トリエンナーレ 2008 のキュレーターの一人。
- <sup>9</sup> 「住在人民城寨/RMB City」資生堂ギャラリー 2009 年 10 月 27 日〜 12 月 20 日  
[http://www.shiseido.co.jp/gallery/exh\\_0910/html/index.htm](http://www.shiseido.co.jp/gallery/exh_0910/html/index.htm)
- <sup>10</sup> 図 04 徐坦 キーワード・スクール: 筆者撮影
- <sup>11</sup> 『第七屆上海双年展』カタログ上海書画出版社 2008 上海ビエンナーレ「快城快客」トランスローカルモーション—9・9-11・16 上海美術館
- <sup>12</sup> 図 05 尹秀珍「フライングマシーン」: 筆者撮影
- <sup>13</sup> 図 06 王慶松「荷物」: 筆者撮影
- <sup>14</sup> 図 07 王慶松「流浪漢」2004 部分: 注 15 より
- <sup>15</sup> 王慶松の作品はいわゆるコスプレ的なパフォーマンス撮影が一部を成している。王慶松「流浪漢」2004 以降、「乞討者(物貰い)」など貧困を直視し再現している。杜曦雲「摆拍的“新闻摄影”—王庆松访谈」『美術焦点』2008 年 2 月参照。また高氏兄弟は 2002 年 2 月 4 日春節の前夜、山東省済南の町で「帰る家のない

人々」や出稼ぎ労働者とともに年越しの宴会をするという作品をつくっている。「请客过小年与无家可归者共餐—高氏兄弟答记者问」『東方芸術』2002 年 3-4 月号 総 50 期

- <sup>16</sup> 図 08 張偉傑「歎楽頌」: 注 11 より
- <sup>17</sup> 図 09 周滔「1, 2, 3, 4」: 注 11 より
- <sup>18</sup> 図 10 井士剣「移城」: 筆者撮影
- <sup>19</sup> 「雀村往東—楊福東的個展」莫干山路五〇号 (M50) 香格納画廊 (ShanghART) (2008/9/7-10/12) 図 11 楊福東「雀村往東」  
[www.douban.com/group/topic/4121367/?from=mb-61685507](http://www.douban.com/group/topic/4121367/?from=mb-61685507)  
ヤン・フードン石田留美子訳《雀村往東》『国立国際美術館ニュース』2008 年 2 月 165 号
- <sup>20</sup> こうした貧困を描くドキュメンタリー的なビデオ・アートの方向性は賈樟柯ら中国映画の第 6 世代や最近の自主映画の傾向とも一致する。現代アートと映画両方からリアリティを追及していると言っていいだろう。
- <sup>21</sup> 艾未未 AiWeiwei・安迪 AnDi・舒勇 ShuYong・趙半狄 ZhaoBandi「身体媒体 BODY MEDIA」策展人 Curator 舒勇 ShuYong 08・03・08-04・08 北京当代唐人芸術中心 [www.tangcontemporary.com](http://www.tangcontemporary.com)
- <sup>22</sup> 簡単な紹介は「ワールドニュース 北京」『BT 美術手帖』60 巻 総 908 号 2008 年 06 月 p89 に示した。
- <sup>23</sup> 「艾未未展 何に因って?」(2009 年 7・25-11・8 森美術館) が開催された。開催後、艾未未と筆者の会話 2009・9・3 北京東四 十三条 艾未未の実家。
- <sup>24</sup> 図 12 朱金石 ZhuJinshi「権力與江山 POWER AND JIANGSHAN」08・03・08-04・27 ARARIO BEIJING [www.arariogallery.com](http://www.arariogallery.com)
- <sup>25</sup> 夏星 2006 麦勒画廊 Galerie Urs Meile Beijing-Lucerne, 北京市朝阳区草场地村 104 号: 2008 年 01 月 26 日—2008 年 03 月 29 日  
[www.artcool.com/exhibit/publish\\_exhibit.php?exhibitid=22571](http://www.artcool.com/exhibit/publish_exhibit.php?exhibitid=22571)  
『夏星 XiaXing2005』麦勒画廊 Galerie Urs Meile Beijing-Lucerne2007 も参照。
- 図 13-1 夏星 061227 図 13-2 『新民報』061227
- <sup>26</sup> 図 14 韓冰「大工事時代の愛 4 号」星条旗 2007: 注 27 より
- <sup>27</sup> 休止符—当代芸術展 艾未未、陈羚羊、苍鑫、戴光郁、韩冰、何成瑛、何云昌、黄锐、金锋、李路明、盛奇、温普林、杨帆、张大力、张念等。2008 年 4 月 26 日-5 月 26 日在北京紅星画廊。  
[www.cqvip.com/qk/84635X/200805/27393842.html](http://www.cqvip.com/qk/84635X/200805/27393842.html)
- <sup>28</sup> 図 15 戴光郁「天安门—天は知っている」2004: 注 27 より

- <sup>29</sup> 簡単な紹介を「ワールドニュース 北京」『BT 美術手帖』61 巻 総 917 号 2009 年 01 月 p 115 に示した。  
楊少斌 YangShaobin X-Blind Spot (X 后視盲区) 2008・9・2-10・18 長征空間 北京 798 大山子芸術区 -86-10-6438-7107  
E-mail: [lm@longmarchspace.com](mailto:lm@longmarchspace.com)  
図 16 楊少斌 YangShaobin X-Blind Spot : 筆者撮影
- <sup>30</sup> 「文本的踪跡—楊少斌訪談」『ART MAP 藝術地図』2008・9 参照。
- <sup>31</sup> 地震 2008・8・19-9・21 ART CHANNEL 芸術通道 北京 草場地芸術東区 -86-10-6433-5080  
E-mail: [artchannelbj@sina.com](mailto:artchannelbj@sina.com)  
Webpage: [artchannelbj@sina.com](http://artchannelbj@sina.com)
- <sup>32</sup> From Six Mile Village to Three Shadows 六里屯から三影堂へ 榮榮 RongRong&映里 inri 新作展 2008・8・8-10・7 三影堂攝影藝術中心 草場地芸術東区 -86-10-6432-2663  
E-mail: [info@threeshadows.cn](mailto:info@threeshadows.cn)  
Webpage: [www.threeshadows.cn](http://www.threeshadows.cn)
- <sup>33</sup> 向京「全裸」NAKED BEYOND SKIN 2008・9・6-10・2 北京 当代唐人藝術中心 798 大山子芸術区  
E-mail: [info@tangcontemporary.com](mailto:info@tangcontemporary.com)  
Webpage: [www.tangcontemporary.com](http://www.tangcontemporary.com)  
図 17 向京「百人の人があなたを奏でるの？それとも一人？」2007 : 筆者撮影
- <sup>34</sup> 図 18 嚴培明「童年的風景」2009・6・19-10・11 北京 大山子 798 芸術区 UCCA Ullens Center for Contemporary Art ユーレンス現代アートセンター 参照 Webpage:  
<http://www.ucca.org.cn/portal/calendar/search.798?op=bydate&select=2009-9-6>
- <sup>35</sup> 図 19 顧德新 2009・5・2-9・6 : 筆者撮影 北京 大山子 798 芸術区 Galleria Continua Beijing 常青画廊 参照 Webpage: <http://www.galleriaincontinua.com/>  
[http://www.dszg.com/news/news\\_show.asp?id=3913](http://www.dszg.com/news/news_show.asp?id=3913)  
全文は「我们杀过人我们杀过男人我们杀过女人我们杀过老人我们杀过孩子我们吃过人我们吃过人心我们吃过人脑我们打过人我们打瞎过人眼我们打烂过人脸—我们能上天堂」  
「我々は人を殺したことがある我々は男を殺したことがある我々は女を殺したことがある我々は老人を殺したことがある我々は子どもを殺したことがある我々は人を食べたことがある我々は心臓を食べたことがある我々は脳を食べたことがある我々は人を殴ったことがある我々は目を殴り潰したことがある我々は顔を殴り潰したことがある —我々は天国へいける」
- <sup>36</sup> 王魯炎「整体的背面」キュレーター劉鼎 2008 年 1 月 26 日—3 月 26 日卓越藝術 北京大山子 798 芸術区
- <sup>37</sup> 楊少斌 YangShaobin 「縦深 (深度) 八〇〇メートル」2006 と体制的なりリズム絵画については拙稿「中国現代アートの現状と課題」『アジア遊学』97 号 (特集 : 現代中国のポピュラーカルチャー) 2007 年 3 月 p 162-171 に示した。
- <sup>38</sup> 艾未未が 2009 年 8 月、成都警察に殴打された事件については以下のサイトなどで確認できる。  
<http://tdx-proxv.appspot.com/687474703A2F2F7777772E6E746474762E636F6D2F7874722F67622F323030392F30392F31352F613334393131302E68746D6C2370686F746F>